

妻が残したもののおかげで入居できました
気さくな入居者の友人にも恵まれました

佐倉〈ゆうゆうの里〉園田良一様(78歳) 令和5年9月



ピンポンを楽しむ園田様

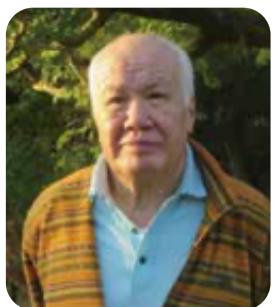
もどもと板前の仕事をしていましたが、本格的に自営をしたいと定食屋さんを始めました。お店の前に中高一貫の学園があり、体育会系の試合があるとお弁当の注文が入るようになつたんです。他校の分も含め100個、200個と監督の先生がうちに注文してくれました。多い時は500個、もう徹夜ですよ。そういう繋がりができるお陰で売上を伸ばすことができました。それで20年ちょっと。50歳の時、今度は学園側から寄宿舎をつくるので、その管理・経営をやつて欲しいという話が舞い込みました。女房と相談してお受け

配慮しながら、食材に費用をかけデザートも提供しました。生徒はよく食べるし大喜びですよ。近所に住む保護者の方から「うちの息子がお世話になりました。食事が美味しくていっぱい食べたそうですね」と言わされた時は嬉しかったね。

れば自分が介護したって気持ちになれるかもしれないが、言葉を交わして5秒で亡くなつたからあっけにとられてしました。夜になると「あれ、居たのに」とてなる・・・ああいうのは何とも言えないね。先のことを考えられるようになつたのは女房が亡くなつて二年経つてからでした。

楽しみは 5つのサーケルと
飲み会と旅行

食事は入居しても変わらず自分で作っています。特に、夜は晩酌する為、つまみを作ります。自分なりに工夫して色々作って冷凍しています。入居してから人の交流もなんとかうまく行っています。恵まれたなと思っています。楽しみはサークルと飲み会と旅行。サークルはピンポン、卓球、麻雀等 5つ入っています。飲み会はサークルや飲み会仲間と行きます。旅行は行けるうちはどんどん行こうと思っています。できれば一緒に行く友達ができればいいなと思う。でも、自分が好きなことをやっているわけだから、無理があつてはいけないし、まずは、気心の知れた友人を作つて行きたいです。



奥様が育てていた牡丹(園田様撮影)

